

第5学年 図画工作科学習指導案

日時 平成16年 9月29日(水)

場所 一関市立南小学校

学級 5年C組(男15名 女17名)

指導者 小野寺 英

1 題材名 「心に残ったこと」 A表現(2)絵に表す

2 題材について

(1) 児童観

本学級の児童は、図工の時間を楽しみにしており、学習活動に対する集中力も高い。絵を描く、工作を作るなどの造形的な活動には、意欲的に取り組む児童が多い。反面、表したいという思いはあっても具体的なイメージがもてなかったり、何からどのように活動を進めればよいか分からなかったり、造形的な活動に苦手意識をもっている児童も数名見られる。また、色々な用具の使い方や彩色の仕方、絵の描き方について、技術的に未熟な部分や分からないことがあり、自分の思っていることを思い通りに表現することができ、十分な満足感を得られている児童は少ない。

「ザラザラ画面」(砂絵)の学習では、下絵の段階で人物や建築物、自然物の描写が平面的でマンガ風な感じの絵が多く、描写に苦心している様子が多く見られた。また、砂の色使いにおいては単色で色をつけようとする児童が多く見られた。自分の思いをより思い通りに表現する為には、ある程度の写実的な描写能力と混色や色々な彩色能力を身に付けることが必要だと考える。

(2) 教材観

学習指導要領の高学年の目標には、「材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて主題の表し方を構想するとともに、美しさなどを考え、創造表現の能力、デザインや創造的な工作の能力を高めるようにする。」とある。これは内容のA表現(2)「見たこと、感じたこと、想像したこと、伝えたいことを、絵や立体に表したり、工作に表したりするようにする。」に関する目標である。この内容では、児童が造形的な新しい試みをしながら、個性的で創造的な表現活動に取り組むようにし、創造表現の能力、デザインや創造的な工作の能力を高めることをねらいとしている。従って、児童一人一人が表したいことに合わせておよその目的や主題をもち、自分の表し方で表現できるようにし、想像力や造形感覚、技能など、もてる力を十分働かせるようにすることが求められている。

本題材は、自分の生活を振り返り、心に残ったことを、自分の思いがよく伝わるように画面構成や色の使い方を工夫しながら、絵に表すことをねらいとしている。表したいことを表すために、色や構成の美しさを考えてるとともに、表し方を構成し計画して、創造的な技能を生かして表現することに適した題材であると考え。

(3) 指導観

本題材の指導では、今月初めに行われた、集団宿泊学習を取り上げたい。記憶も新しく、また、小学校生活で初めての宿泊を伴う活動ということで、児童一人一人の心に強く残っている行事である。児童は、自分の一番心に残っている場面を想起し、その場面を表すために思いを巡らせながら、意欲的に造形活動に取り組むことができると考える。

導入段階では、集団宿泊学習の思い出を話し合い、題材に対する意欲を高めることができるようにしていきたい。また、集団宿泊学習での様々な活動の写真を用意し、児童が心に残っている場面を想起し、絵を描く際の手がかりとすることができるようにしたい。

画面構成と彩色の段階では、自分が描く画面の構成と彩色の見通しをもつことができるように、共通の写真を用いて、構図のとり方や水彩絵の具の彩色や混色の仕方等について考えをもつことができるようにしたい。一律の指導としてとらえるのではなく、児童一人一人が表したいことを表すために必要な技能の幅を広げる為の活動としてとらえていきたい。

下絵を描く段階では、下書き用紙を準備し、まずは、思い思いに描き、その後一番描きたい部分を見直して、付け足したりトリミングしたりして画面の構成を修正することができるようにしたい。

描写・彩色の段階では、お試しコーナーを設置し、学び合った彩色や混色の仕方を実際に試すことができるようにする。お試しコーナーで児童同士の自然発生的な学び合いを期待したい。

鑑賞の段階では、自分の作品を発表し合いながら、互いに表現で伝えなかったことや表現の違い、よさに気付くことができるようにしたい。

3 題材の目標

- ・ 集団宿泊学習の思い出を想起し、自分が表したい場面を選び、絵に描き表そうとする。
(関心・意欲・態度)
- ・ 自分の表したい場面の画面構成の仕方や彩色の仕方を考えることができる。
(発想・構想の能力)
- ・ 表したいことが表せるように、画面の構成の仕方や彩色の仕方を考えながら、絵を描くことができる。
(創造的な技能)
- ・ 画面の構成や彩色のおもしろさを感じ取り、表現で伝えなかったことに気付くことができる。
(鑑賞の能力)

4 題材の評価規準

「A表現(2)」

	関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能
B 概ね満足できる	・自分が描き表したいことを選び、表したいことを表す為に、自分なりの方法で表現したり、色々な表現方法を試みたりするなど、表現活動の楽しさを味わおうとする。	・自分の描き表したいことを表す為に、表現方法を試したり、やり直したりしながら、画面の構成や彩色の仕方を考える。	・自分が描き表したいことに合わせて、画面の構成や彩色の仕方を考え、色々な表現方法を試しながら、自分なりの方法で表現する。

「B鑑賞(1)」

	関心・意欲・態度	鑑賞の能力
B 概ね満足できる	・作品の美しさや表現方法のよさ、表現を通して伝えなかったことを味わおうとする。	・画面の構成や彩色の仕方から表現のよさを感じ取り、表現する人の思いや意図に気付く。

5 題材の指導・評価計画(8時間扱い)

時間	学習活動	評価規準			
		関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	・ 集団宿泊学習の思い出を話し合い、自分が絵に表す場面を選ぶ。	A 集団宿泊学習の思い出を想起し、自分が絵に描く場面を、思い出を話し合いながら意欲的に選ぶようにする。 ----- B 集団宿泊学習の思い出を想起し、自分が絵に描く場面を選ぶようにする。			
2・3	・ 共通の場面を描き、画面の構成の仕方や彩色の仕方を学び合う。		A 共通の題材から、表現したいことをとらえ、思いや意図に合った画面構成や彩色の仕方を考える。 ----- B 共通の題材から、自分なりの画面構成や彩色の仕方を考える。	A 表現したいことに合った画面構成で描き、彩色の方法を色々工夫しながら表現する。 ----- B 画面構成や彩色の仕方を考えながら、自分なりの表現方法で表現する。	

時間	学習活動	評価規準			
		関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
4・5 6 (本時) 7	<ul style="list-style-type: none"> 修正を加えながら、画面の構成を考えて、下絵を描く。 彩色の仕方を色々試しながら自分なりの方法で色を塗る。 	A 自分が選んだ場面を、よりよい表現方法を工夫しながら意欲的に絵に描き表そうとする。 B 自分が選んだ場面を絵に描き表そうとする。	A 自分の思いや意図に合った画面構成や彩色の仕方を考える。 B 自分が表したい場面の画面構成や彩色の仕方を考える。	A 表現したいことに合った画面構成で描き、彩色の方法を色々試したり工夫したりしながら表現する。 B 画面構成の仕方や彩色の仕方を考えながら、自分なりの表現方法で表現する。	
8	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品を発表したり、他の作品を鑑賞したりして、表現のよさを味わう。 	A 作品に込めた自分の思いや意図を進んで発表したり、作品の表現のよさや伝えなかったことを意欲的に感じ取るうとしたりする。 B 自分の作品を発表したり、表現の良さや伝えなかったことを感じ取るうとしたりする。			A 画面の構成や彩色など、表現のよさから作品に込められた思いや意図を感じ取り、表現で伝えなかったことをとらえる。 B 画面の構成や彩色など、表現のよさを感じ取り、表現で伝えなかったことに気付く。

6 本時の指導 (6 / 8)

(1) 授業の構想

本時は下絵を描いた後、彩色を行う段階である。この時間になると、児童の学習活動の進度に大きな差が見られることが予想される。下絵を描いている児童、どんどん彩色を進める児童などそれぞれの学習活動に対して適切な声掛けや支援を心掛けていきたい。下絵を描き進めることが難しい児童には描写の仕方を具体的に助言する。彩色を進める児童に対しては、実際に彩色をする前に混色や色々な彩色方法を試すことができる場を設定し、児童が主体的に題材に関わることができるようにする。また、教師に助言を求める児童に対しては、児童の意思を必ず確かめるようにし、その上で助言を行うようにする。さらに、児童同士で関わり合いがもてるような助言（ さんに聞いてみよう ）ができるように、児童の進度や混色・彩色の仕方を可能な限り把握していきたい。

(2) 目標

自分が表したい集団宿泊学習の場面を、画面の構成を考えて下絵に描いたり、混色や彩色の仕方を考えながら、色を塗ったりすることができる。

(3) 具体の評価規準

評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：支援を要する児童への具体的手立て
・発想・構想の能力	・下絵を書き進める際に、自分が表したいことの為に、思いや意図に合った画面の構成を考える。	・下絵を描き進める際に、自分なりの画面の構成を考える。	・下絵を描き進めることが難しい児童には、画面のバランスのとり方を具体的に助言する。

評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：支援を要する児童への具体的手立て
・創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや意図に合った画面の構成で、納得のいくまでやり直ししながら、下絵を意欲的に描き進める。 ・自分が表したいことの為に進んで混色や彩色の方法を試しながら、自分なりの方法で色を意欲的に塗り進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの画面の構成で下絵を描き進める。 ・混色や彩色の方法を試しながら、自分なりの方法で色を塗り進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下絵を描き進めることが難しい児童には、描写の仕方を具体的に助言する。 ・混色に迷ったり、彩色の方法を決めかねていたりする児童には、試しのコーナーを活用しながら具体的に助言する。

(4) 展開

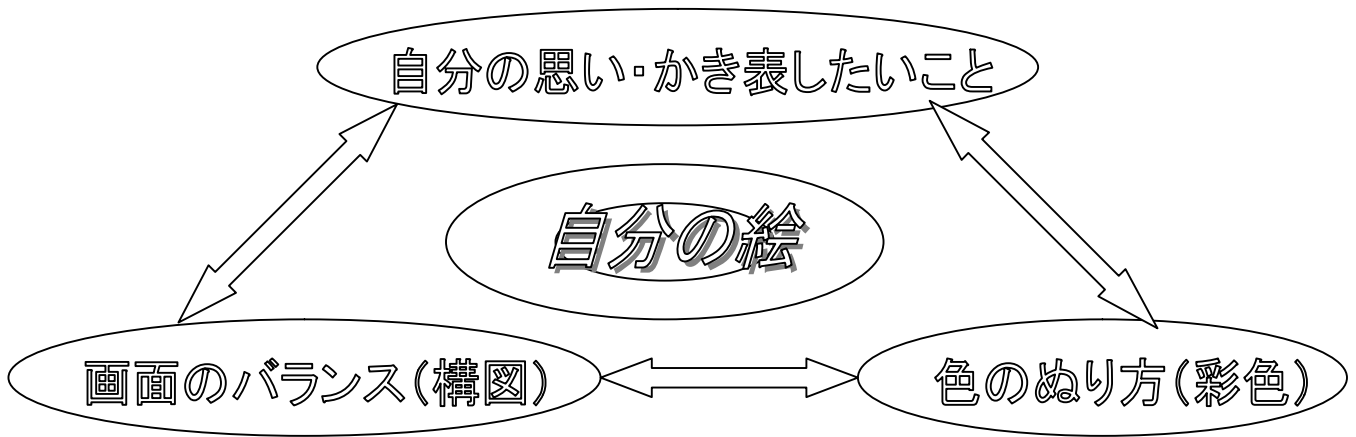
過程	学 習 活 動	教 師 の 支 援 評 価
つかむ 5分	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。 自身の思いを表現する為に、画面のバランスや色のぬり方を考えながら絵をかこう。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習活動において、自分なりの工夫が見られる画面構成や混色、彩色の方法を紹介し、本時の学習活動に対する意欲を高めることができるようにする。
あ ら わ す 3 2 分	3 下絵を描いたり、色を塗ったりする。 ・画面の構成を考えながら下絵を描く。 ・混色や彩色の方法を考えながら、色を塗り進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・下絵を描き進めることが難しい児童には、人物や自然物の大きさやバランスのとり方、描写の仕方を具体的に助言する。 ・彩色を進める児童には、表したいことを思い通りに描き表すことができるように、混色や彩色の方法を試すことができるコーナーを設定する。(混色・にじみ・ぼかし・ハイライト・点描、線描、タッチの大小 etc) ・彩色を進めることが難しい児童には、具体的な混色の仕方や彩色の方法を助言する。 ・助言を行う際には、可能な限り児童の意思を確認してから行うとともに、児童同士で関わり合えるような助言も行う。 【発想・構想の能力】について (活動の様子・作品) 【創造的な技能】について (活動の様子・作品)
ま と め る 8分	4 本時の活動を振り返る。 ・自分なりに工夫できたところを発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの工夫が見られる児童の作品を取り上げ、良さを互いに感じ合うことができるようにする。 【発想・構想の能力】について (発表・作品) 【創造的な技能】について (発表・作品)

7 資料

(1) 学習カード

「心に残ったこと」学習カード 5年 組()

自分の思いを表すために、画面のバランスや色のぬり方を考えながら絵をかこう。



自分が絵にかき表したいことは？ _____

どんなことに気を付けていこうかな？ _____

.....

.....

自分の作品はどうかな？ _____

.....

.....

.....

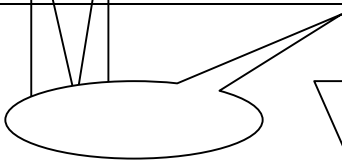
(2)場の設定



教室

アドバイスコーナー

ワークスペース



お試しコーナー

